

## 令和7年度 岩手県教育支援委員会(会議録)

1 日時 令和8年1月20日(火) 13:30~15:00

2 場所 県庁12階 特別会議室

3 内容

(1) 開会

(2) 教育長挨拶

(3) 委員紹介

(4) 委員長・委員長代理選出

(5) 報告及び協議

(6) その他

(7) 閉会

4 出席者 別紙名簿の通り

5 委員長・委員長代理について

委員の互選により選出

委員長:藤原委員

委員長代理:武部委員

6 「報告及び協議」の概要

(1) 本県における教育支援に関する状況について

ア 特別な支援を必要とする児童生徒の就学、在籍の状況及び対応について

※事務局より別紙資料に基づき説明。「特別支援学校の在籍状況」、「小・中・義務教育学校特別支援学級及び通級指導教室の在籍等の状況」、「就学支援アドバイザー及び県教育支援委員会調査員」について説明。

<質疑・意見>

【赤坂委員】

特別支援学校の高等部の在籍数が減少している背景について、公立、或いは私立の高等学校への進学率が高まっているためということでしたが、高等学校に進学した生徒達が最終的に社会に出て、適応して、そして暮らしていけるかということが重要になると思います。中学校では、その実態が分からないと確かな指導指針が立てられないと思いますが、高等部に進学した生徒、或いは、私立や公立の高等学校に進学した生徒のその後の進路等の調査は進んでいるのでしょうか。

**【事務局】**

特別支援学校の卒業生につきましては、一般就労や福祉サービスの様々な形態について、どのような進路状況になっているかを把握しているところです。

高校の方につきましては、障がいのある生徒がどういう進路選択をして、卒業後どういう生活をしているかというところにつきましては、具体的な調査は行ってないところです。

今年度については、総合教育センターに依頼をして、高等学校における障がいのある生徒、或いは支援の必要な生徒たちの進路指導はどうあればいいのかという研究を進めているところです。

年度末に成果物ができあがってくる予定ですが、その研究の中では、専門学校に進学したり、就労したりしている生徒もいますので、いくつかの進路がある中で支援の状況や、支援が必要な生徒を受け入れる上でどういったことが課題となっているのかという調査は一通り実施しています。今後は、その課題を踏まえた成果物ができてるので、それらも参考にしながら次年度以降、課題や対応について周知する計画です。御質問のような調査は行っていませんが、そういった対応を今進めているところです。

**【赤坂委員】**

そうすると来年度はその報告も一緒にいただけるのですか。

**【事務局】**

進路について具体的に「何名がどこに」というものでしょうか。

【赤坂委員】

具体的ではなくてもいいのですけれども、これは、岩手だけではなくて、全国のいろいろなところに行っても、なかなか専門的な指導がなされずに、そのまま3年間を過ごして、社会に出てなかなか適応ができないというのが、問題であることをお聞きするものですから、この生徒たちが本当に私立や公立の高等学校に進学したことがよいことだったのか確かめられないと、中学校の先生も指導しづらいのではないのかなと思って御質問しました。

【小林委員】

盛岡聴覚支援学校の中学部では、昨年度から今年度にかけて11人の在籍が0人になっていますが、こちらはどのような背景だったのでしょうか。

【事務局】

盛岡聴覚支援学校の中学部が今年度から0人になっていました。ここ数年、小学校や中学校へ進学する生徒が増えていることから、中学部の在籍が減ってきて、今年度は0人になってしまった状況です。

高等部には、市町村の中学校から入学してくるケースはありますが、ここしばらくの期間は中学部が0人の状況が続くものと見込んでいます。

【阿部委員】

盛岡聴覚支援学校の生徒数が減っているということですが、例えばコミュニケーションの問題などがクリアになっているのかとか、人工内耳などが進んだために特別支援学校に行かなくてもよくなったのかとかそういう具体的なことは分かっていますか。

【事務局】

具体的な理由は、ちょっと明確には申し上げられないので推測ですが、委員がおっしゃるように人工内耳等の発達によって、小学校や中学校でも、教育を受けることが可能になってきていることが1つの要因と捉えています。

【齋藤委員】

資料3ページの特別支援学級の障がい種の人数についてですが、医療的ケアが必要なお子さんがどこの学級に所属されているかというのは、教育委員会でも把握はされているのでしょうか。

【事務局】

各小中学校において、通常の学級か、特別支援学級かの種別のところについて把握をしています。実際は、肢体不自由特別支援学級に在籍していることが多いと捉えています。

【赤坂委員】

就学支援アドバイザーの方々にお願いがあります。岩手の方では、まだ始まりが遅いのですが、国の方としては5歳児健診がこれからますます進んでいくところです。その時に、ちょっと気になるお子さんたちの把握について教育委員会や就学支援アドバイザーの先生方など、関係するすべての人たちが一緒になって連携して欲しいと思います。県内であれば遠野市とか平泉町で先進的に取組んでいるようですが、こういったところをモデルケースとしてすべての自治体で、5歳児健診と教育委員会が必ず、一緒に取組んでいただくことで、就学後の困りごとが必ず減ると思いますので、ご協力の方よろしく願いいたします。教育委員会の方で指導していただけると大変助かります。

【齋藤委員】

6ページにある市町村における就学先の検討に係る取組みについてです。特別支援学校では、全ての学校では給食が出ていません。障がいの状況によって、子どもたちは食べられる食形態が様々な状況です。こういった、就学先の検討のときにその食形態における相談はあるものなのでしょうか。具体的に相談を受けている場合、どなたが相談に対してアドバイスをされているのか教えていただきたいです。

【伊藤調査員】

一関清明支援学校の事例としてお伝えさせていただきます。本校の給食は弁当給食ですので、業者に依頼して給食を準備しています。そのため、校内で食形態を変更するということが難しい状況ではありますが、教育相談を行う際に、食形態について栄養教諭が相談を行い、最終的には校長の判断により、併せて業者にも相談しながら、対応

可能なところでお受けしている状況です。

【齋藤委員】

そうすると、業者により配達されたお弁当は、校内で学校の先生が刻み食にしているのでしょうか。

【伊藤調査員】

基本的には学校の弁当給食の場合には、はさみによる刻みのみには対応することができるという規定がございます。それ以外については、業者の方に対応をお願いして、現在は、対応していただいている状況です。

【藤原委員長】

特別支援学校の高等部の生徒の減少が見られている状況ですが、今年度、県内全域において、中学校と特別支援学校高等部との進路情報交換会が行われまして、本校の担当者も出席させていただきました。

初めて特別支援学校について知ることができたという中学校の先生方もいて、とても有意義だったと感じ、とても期待している取組みです。オンラインでの開催であったということから、中学校の先生方が何人ぐらいの参加があったか教えていただきたいです。

【事務局】

今年度、初めて中学校と特別支援学校高等部との進路情報交換会を実施させていただきました。

中学校の特別支援学級に関わる先生方と特別支援学校支援学校の高等部の先生方に御参加をいただき、具体的な高等部の学習の様子や卒業後の進路状況等について情報交換をしました。開催につきましては、全部で7回の実施をしました。各回では3校から4校の特別支援学校に参加いただき、各学校の説明をいただきました。中学校からの当日参加については合計で37名の参加がありました。併せて、当日の様子を後日オンデマンド配信しました。これには、163名のご参加をいただいたところでございます。次年度の実施も予定しておりましたので、さらに参加人数が増えるように取組んで参りたいと考えています。

イ 医療的ケアの実施体制等について

※事務局より別紙資料に基づき説明。「特別支援学校の在籍状況」、「幼稚園、小・中学校・義務教育学校の在籍状況」、「医療的ケアの実施に向けた体制整備」「考察」「今後の対応等」について説明。

## <質疑・意見>

### 【赤坂委員】

お願いになりますが、日本小児神経学会の方では医療的ケアのお子さんを誰一人取り残さないという趣旨のもとで、災害時の個別避難計画を推奨するという活動で活動しています。それに伴って今年度、全部の特別支援学校にアンケート調査をお願いすることにしておりましたので、簡単なものですのでぜひ回答をお願いしたいと思います。

その中で、国では福祉避難所指定ということで、特別支援学校を整備してくださいという趣旨の通達が来ていますが、実際はなかなか進んでいない状況です。なぜ進まないのかというあたりをぜひ協力しながらやらせていただきたいです。また、医療的ケアアドバイザーが来年度も視察をするのであれば、その際に、先生方やご家族への短い災害対策のアドバイスを周知していく活動を岩手医科大学附属病院では考えていましたので、御協力をよろしくお願いします。ふれあいランドで医療的ケア看護職員さん向けの研修会を実施する際にも短時間で災害対策のお話をさせていただきたいと考えています。

現在の状況として、人工呼吸器が必要なお子さんのところでも、県からガソリンの発電機をもらいましたが、まだ開封していない方が結構いらっしゃることもあります。そういった状況に対して、少し先生方とも協力しながら、特別支援学校の先生方への発電機のお話などさせていただきたいと考えていました。

それからこれはお礼になりますが、今年度、岩手医科大学附属病院の八鍬先生が医療的ケアアドバイザーとして、県内の様々な特別支援学校を視察させていただいた中で、子どもたちの多くは岩手医科大学附属病院のかかりつけのお子さんですが、特に県南の方で私たちが把握していなかったお子さんや主治医が県外の方のお子さんについてどこにどんなお子さんがいるかということが分かりました。その方々の中には、夜間に急変した際に岩手医科大学附属病院を受診することもあるので、私たちにとっても大変ありがたかったです。今後も、このように学校と医療が協力し合っていければと考えておりますので、よろしく願いいたします。

### 【事務局】

特別支援学校への調査につきましては承知いたしました。福祉避難所につきましても、県内でいくつかの学校は指定を受けて、市町村と協力しながら進めています。まだまだこれからという状況も把握しておりますので、一緒に

考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

医療的ケアアドバイザーの視察につきましては、今年度は終了しているところでしたので、先ほどお話をいただいた災害対策につきまして、研修会の内容の検討も含めて、一緒にまたご相談させていただければと考えています。

#### 【小林委員】

先程、斎藤委員から給食の件について御発言がありましたが、各学校の安全に暮らすためのマニュアルにおいて、食形態の評価についてやはり医師が少ないという課題があると感じています。他県では、言語聴覚士を活用して学校で研修会を実施しているように聞いていますが、本県でもそのような予定や実際の対策などを考えられていますでしょうか。

#### 【事務局】

本県においても、言語聴覚士や作業療法士などの専門家を配置している特別支援学校があります。例えば食事のことについては言語聴覚士に御指導をいただけることから、学校によっては、夏休みや冬休みなど長期休業の期間に教員の食に関することについて研修実施している学校もあります。

#### 【齋藤委員】

現在、県内の小・中学校と特別支援学校に合計 115 名の医療的ケア児が在籍していらっしゃるということから、このお子さんたちの宿泊を伴う学校行事に参加する場合のことを、今後も継続して検討していただきたいなと思っています。

他県だと、看護師を教員として採用していたり、トラベルナースを現地で活用したりして、宿泊を伴う行事を行っているところもあると聞いています。是非、継続して御検討いただければと思います。

#### 【事務局】

先日、全国の担当者が集まる会議があり、その中でも宿泊を伴う行事への対応が話題になりました。モデルケース等から進めている事例があり、そういったところから学べる場所もあると感じています。本県の実情に合わせて、

どのような形ができるかと検討して参りたいと思います。

イ 市町村教育委員会及び県立特別支援学校から障がいの程度等の判断が困難な者として依頼のあったものの審議について

※略

ウ その他

※協議題なし

※質問意見等なし

7 「その他」の概要

※質問意見等なし